

## 「座・高円寺開館 10 周年記念展」が始まりました

3月11日から区役所2階区民ギャラリーで、今年5月1日に開館10周年を迎える杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」の記念展が始まりました。本展では、座・高円寺でこれまで行われてきた舞台芸術公演の衣装や小道具、舞台模型の展示をはじめ、子どもを対象とした事業や地域と協力した取り組みを、写真パネルなどを通じて紹介しています。記念展は、3月22日まで開催されます。

「座・高円寺」（高円寺北2-1-2）は平成21年5月にオープンし、演劇やダンスといった本格的な舞台芸術作品の上演をはじめ、ワークショップや講座の開催など、芸術文化の振興を図るための各種事業を実施しています。また、区民の方々などが芸術文化活動や交流が行える場や機会を提供しその活動を支援するとともに、阿波おどりホールを備え、東京の夏の風物詩「東京高円寺阿波おどり」の普及振興の役割も担っている劇場です。平成26年度には、こうした地域に根ざした活動が高く評価され、一般財団法人地域創造から「地域創造大賞（総務大臣賞）」を受賞しました。

11日から始まった「座・高円寺開館10周年記念展」は、これまで上演されてきた優れた舞台芸術をはじめ、高円寺四大まつりなどを通じた地域との関わり、子どもを対象とした事業など座・高円寺をさまざまな面から紹介し、より身近に感じてもらおうと企画されました。事業の柱のひとつである「あしたの劇場」では、地域の子どもたちに劇場という場を知ってもらいたいと、創作活動等を行うワークショップの開催や区立小学校4年生を招待した「演劇鑑賞教室」など、年間を通して多様な試みを行ってきました。本展の中には、子どもたちが取り組んだワークショップの様子を記録した写真パネルも紹介しています。



そのほか、座・高円寺で上演された舞台「リア」で女優・渡辺美佐子さんが着用した衣装、宮沢賢治の「フランドン農学校の豚」を題材にした演劇の舞台模型など、普段見ることができない貴重な資料を数多く展示しています。